



奉納いただいた「神明社」の社額（拝殿前）

平成二十五年の新春を迎へ、謹んで新年の御祝詞を申し上げます。

天皇・皇后両陛下におかれましては、おすこやかに新春をお迎えになられましたこと、慶賀の至りに存じ上げます。

氏子崇敬会の皆様方におかれましては、ご健勝にて新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

本年はいよいよ伊勢の神宮で第六十二回式年遷宮の齋行を迎える年となります。

た。夏には新宮の御敷地にお白石を敷きつめる「お白石持行事」が、地元伊勢の市民をはじめ多くの崇敬者皆様ご参加のもと、盛大に執り行われます。そして、秋には檜の香りも芳しく、瑞々しい新社殿に御神体を遷し奉る「遷御」の儀が斎行される予定です。二十年に一度の国家の重儀である御遷宮の完遂を何よりも祈念するところでございます。

当社といたしましても翌平成二十六年一月に伊勢神宮式年参宮を考慮しております。

神明の無辺のご加護をいただき、氏子崇敬者の皆様になりますことを心よりお祈り申し上げます。

新年のご挨拶

三富富岡総鎮守

神明社

とめ 富の神明さま

発行所
三富富岡総鎮守
神明社
社報第8号
〒359-0002
所沢市中富1507
社務所電話
04-2943-1709
宮司宅電話
049-259-2228

第六十二回 伊勢式年遷宮

参宮団ご案内

二十一年に一度の国家の重儀である伊勢神宮の式年遷宮がこの秋に斎行されます。当社では、参宮団を結成し、平成二十六年一月に遷御された新社殿に伊勢参りを行います。あらためて総代を通じてご案内申し上げます。

- 一、日程 平成二十六年一月二十七日または二十八日 どちらか出発の二泊三日
- （神社庁の割り当てが未定）
- 二、参加申し込み人数 七十名
- 三、参加費 五五〇〇〇円
- 四、主な行程（予定）
- 【初日】 出発く伊勢外宮参拝 鳥羽温泉泊 【二日目】 伊勢神宮内宮、御垣内参拝、下呂温泉泊 【三日目】 高山市内 散策飛騨総社参拝又は世界遺産 産白川郷
- 五、その他 お問い合わせは神明社宮司宅まで。氏子以外の方の参加も歓迎です。

月の原日記

◆昨秋、「いも神様」の社殿が風雨等で傷むのを避けるために「覆い屋」を竣工しました。ここ数年「いも神社」としてマスコミ等の取材も多くなったように思われます。

東京オリンピック聖火台を作った故鈴木文吾先生の「なでいも」。同じくサツマイモを抱いた狛犬。鈴木先生が当社を訪れ、作製にあたって打ち合わせをしたのが昨日のように懐かしく思い返されます。

◆昨年より神社参道等の整備や清掃をして下さる社長さんがいらっしゃいます。社名等をご紹介させていただこうと伺ったなら「陰徳を積まさせていたただいてはいるから」とご遠慮されました。「陰徳を積む」とは、人知れずに行う善行であり、世間に知られない行いです。良いことをすると、それが自分にも返ってくるということですから。陰徳あれば陽報ありともいい、陰徳を積むことが人間には大切であり、これが開運にもつながります。



いも神様の「覆い屋」

◆神道には『敬神生活の綱領』という、神社信仰における実践生活の規範を示したものがありません。その内容は左記の通りです。

- 一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまことを以つて祭祀にいそむること
- 二、世のため人のために奉仕し、神のみこともちとして世をつくり固め成すこと
- 三、大御心をいただきて、むつび和らぎ、国の隆昌と世界の共存共栄とを祈ること

◆私達は、天地自然の恵みによって生かされています。大地に住み、太陽・水・空気の恩恵を受け生命をつないでいます。そして、祖先のお陰によりこの世に生を受けています。祖先あつての自己を考



参道の清掃奉仕

えるとき、祖先の恩・天地の神々の恵みに感謝の気持ちを持つことは当然のことではないでしょうか。自宅の神棚に手をあわせたり、神社参拝時には自分の願い事をする前に、まずは感謝の念を神様に伝えることが大切だと思います。

そして、家族をおさめ隣近所の付き合いを良くし、人々のために奉仕すること。自分一人のための幸福だけでなく、自分以外の人々の幸福のためにも手を差し伸べることです。他人の喜びを自分の喜びとする精神、ここに神道の理想のひとつがあります。世界の人々と互いに助け合って生きていく理想が、この綱領には込められています。

新年のご挨拶



総代会会長
新井 公一

新年明けましておめでとうござい
ます。
氏子並びに崇敬会の皆様には、
健やかに新しい年をお迎えいた
いたものとお慶び申し上げます。
未曾有の被害をもたらした東日
本大震災から一年九ヶ月が過ぎま
した。今なお被災者の多くの人が
ご苦勞なされておられます。被災
地の早急な復旧復興を心より願っ
ております。

さて、今年、平成二十五年は
伊勢神宮では式年遷宮が行われま
す。式年遷宮は二十年に一度、御
正殿そして御社殿、御神宝をはじ
め一切を一新して新宮へ大御神様
にお遷りいただくお祭りです。こ
の式年遷宮は千三百年という永い
歴史と伝統のある日本民族の一大
祭典であります。

当神社におかれましては、大
勢の氏子並びに崇敬者の皆様から
ご奉賛を賜りました。また、平成
十九年には「お木曳き」の行事に

参加させていただきました。
私達、神社の使命として日本の
文化・伝統をしっかりと守りし
ていなくてはならないと強く感
じているところです。
今年も氏子並びに崇敬者の皆様
と一緒に神社繁栄の為に尽力さ
せていただく所存でございます。
本年も皆様方のご指導ご鞭撻を
宜しくお願い申し上げます。



二見浦の夫婦岩



平成19年のお木曳き行事

平成二十四年総代会研修旅行記

秩父神社参拝と秩父路を訪ねて

所沢新田氏子総代 新井 公一

恒例の神明社氏子総代会の研
修旅行が今年も二月十三日、総
数十六名の参加を得て行われま
した。今年には神明社婦人部の皆様及
び総代会の前会長様、前副会長様
に参加していただきました。

今回の研修地は、埼玉県秩父
市の秩父神社です。当日、宮司宅
を午前八時に出発した我々は関越
道に入り、途中、花園ICで関越
道を降り、秩父へと向かいました。
秩父神社に九時三十分に着し全
員揃って参拝いたしました。

秩父神社は埼玉県はもとより関
東地方においても有数の古社であ
り、秩父地方全域を代表する神社
鎮守として秩父の精神的支柱であ
り続けてきました。社殿は秩父盆
地の中心にあり、南に武甲山を仰
いでいます。山里秩父は秩父神社
そして武甲山と共に発展した秩父
市にあります。

秩父神社参拝ののち、神社の
近くにある秩父まつり会館を見学

いたしました。秩父夜祭りに奉納
される豪壮な秩父屋台囃子の音の
中、屋台、笠鉾を目前で見ること
ができました。秩父夜祭りは日本
三大祭りのひとつとして知られ約
三百年の歴史があるといわれてい
ます。
そして、午前一〇時三〇分秩父
まつり会館をあとにしました。一
路、秩父温泉満願の湯に向かいま
した。途中、秩父の山並みに堪能
しつつ車は秩父路を走りました。
道がだんだん細くなり登りになり
到着した満願の湯は山の中の一軒
家の感じで綺麗な山懐でした。み
んなで温泉に浸り、和気藹々、愉
しく懇親をすることができまし
た。

午後三時三〇分、満願の湯に別
れて再び関越道を走り全員無事に
帰着しました。

今回の研修旅行は日帰りでした
が、宮司をはじめ全員楽しい研修
旅行でした。



総代会研修旅行 秩父神社にて

★日本の神話

『三貴神の誕生』

埼玉県神社庁では、日本の神話
を多くの方々に知っていただくこ
と、毎年、神話カレンダーを作成
しています。今年、『三貴神の誕
生』です。

今回は、日本で最も尊い神社で、
三重県にある伊勢神宮にお祀りさ
れている、天照大御神あまてらすおみかみという神様
が生まれるお話です（当神明社の
ご祭神）。このお話の元になっ
ているのは、今から千三百年前にま
められた「古事記」という本に書
かれた神話です。この「古事記」
を作ることを命じられたのが天武
天皇です。



また、今年十月には、伊勢神宮
の式年遷宮というお祭りが行われ
ます。このお祭りは、二十年ごと
ごとに神様の御殿を造り替え、神
様をお遷りする日本最大のお祭り
です。これを初めて決められたの
も天武天皇なのです。
さて、天上の神々の世界である
高天原をお治めになり、地上では
伊勢神宮の中心である内宮にお祀
りされているのが天照大御神とい
う神様です。

お話は、この天照大御神のお父
さんの伊弉那岐命いざなのみことと、お母さんの
伊弉那美命いざなみのみことという二人の神様が、
天上の神様から命じられて、なん
と日本の大地を生みだし、さら
には、この国の大地や自然、自然
現象の一つ一つを神様
として生みだされてき
たところから始まりま
す。

※社務所にて頒布して
います。ただし、部数
に限りがございますの
でご了承下さい。